

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養専門課程	バイオ・再生医療学科	夜・通信	330 時間	240 時間	
	スポーツ科学科	夜・通信	240 時間	160 時間	
	専攻科 バイオサイエンス専攻	夜・通信	240 時間	80 時間	
	日本語学科 (1.5 年コース)	夜・通信	160 時間	120 時間	
医療専門課程	臨床工学技士科 ※2	夜・通信	300 時間	240 時間	
	臨床工学技士科 ※2	(夜)・通信	180 時間	135 時間	
	柔道整復師学科 ※2	夜・通信	300 時間	240 時間	
	柔道整復スポーツ学科 ※2	夜・通信	300 時間	240 時間	
	鍼灸スポーツ学科 ※2	夜・通信	300 時間	240 時間	
	診療放射線技師学科 ※1	夜・通信	360 時間	320 時間	
	診療放射線技師学科 ※1	(夜)・通信	195 時間	180 時間	
工業専門課程	人工知能学科 ※3	夜・通信	300 時間	240 時間	
(備考) ※3 令和6年度より人工知能学科は新カリキュラムに移行。令和5年度入学生までは旧カリキュラムを開講している。実務家教員科目は新旧で共通科目を配置しカリキュラムによる違いはない。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ（実務経験のある教員等による授業科目の一覧）

<https://www.osaka-hitech.ac.jp/school/disclosure/syllabus/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ http://osaka.jikeigroup.net/zaimu

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会富田林病院 院長 (2016. 4. 1～)	2020. 8. 25～ 2029 年度の定時 評議員会の終結 の時まで	業界の情報収集
非常勤	医療法人俊慈会 理事 (2011. 4. 1～)	2025. 5. 30～ 2029 年度の定時 評議員会の終結 の時まで	業界の情報収集
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとしているとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4 つの信頼（学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現および遂行している。また、上記に従い以下の 3 つのポリシー（①ディプロマポリシー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 ① ディプロマポリシーにおいては、「建学の理念」と「4 つの信頼」に基づいて、「即戦力となる学生を育成し、社会に貢献することを最終目標」とし、特定の職業に従事するために必要な技術・知識、態度、考え方をもった学生を社会・業界に送り出すこととしている。 ② カリキュラムポリシーにおいては、「建学の理念」と「4 つの信頼」を実現するために、「専門職業教育」と「キャリア教育」を体系的に一体化した職業人教育のカリキュラムと、海外研修等の国際教育を通じ国際感覚を身に付けるプログラムを提供する。 ③ アドミッションポリシーにおいては「建学の理念」と「開校の目的」に共感できる入学者を国内、国外問わず受け入れる。 これらの、具体的な内容は本校の学則および学校 HP にて記載しているとともに授業計画に反映し当該科目担当講師と学科長との相談により遂行している。 講師に関しては、経歴に関係なく本校のミッションや理念、ポリシーを共有する為、毎年 1 度講師会議を設けている。さらに、専任はもちろんのこと講師に至っても授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、担当科目における最初の授業にて学生へ配布するとともに HP にて公表している。 (※成績評価の具体的内容に関しては様式第 2 号の 3-2 に記載する)	
授業計画書の公表方法	ホームページ 情報公開 シラバス https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure/syllabus/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学園は「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして掲げている。これに倣い学修意欲の把握に関しては各学科教員による定期的な学生面談を実施し図るものとしている。また、客観的指標として各学期に無記名式のカリキュラムアンケート調査を学生に実施し、意欲の確認を行うとともに各教員の授業の質の向上を確認している。さらに、アンケート内容と各学期末に実施している定期試験の結果を確認し個人面談にフィードバックする仕組みを構築している。

試験に関しては筆記試験、実技試験あるいは、レポート提出などの方法があり、当該科目担当講師と学科長との相談により定めている。受験資格に関しては講義時間数の 3 分の 1 以上欠課した者や試験開始後、20 分以上遅刻した者は受験できないなど一定の基準を定めている。(※忌引や公欠が含まれている場合であっても 2 分の 1 を出席しなければ、受験資格を失う。)

試験不合格者に関しては不合格に至った背景(出席不良、点数、公欠など)に合わせ実施している。なお、出席不良において不合格となった場合、不足分のコマ数の補講を行った上で再試験に至る。また、学習の評価は、試験成績(70%)や平素の学習状況(10%)、出席状況(20%)を総合し評価している。

ただし、国家試験を要する臨床工学技士科、臨床工学技士専攻科、柔道整復師学科、柔道整復スポーツ学科、鍼灸スポーツ学科および診療放射線技師学科の評価基準は、学生便覧の教科課程において国家試験に関係する科目について、成績評価は試験素点(定期試験及び小テストを含む)のみで評価するものと定めている。

卒業論文に関してはグループ研究を基礎とし毎年、論文集の発行や発表会を実施している。さらに、学外の公会堂にて「卒業研究・課題研究発表会」を毎年実施しポスター発表および口頭発表を実施している。また、特に優秀な発表においては卒業式にて表彰するなど職業人教育の集大成として取り組んでいる。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) (1) 本校では、GPA (Grade Point Average) 制度による評価を行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されている成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント (GP) に置きかえた平均を数値により表したものである。 また、GPAを参考に下位の学生に対し指導を行う事がある。 (2) 成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数 90 点以上、評価A、GP4。点数 80 点以上 90 点未満、評価B、GP3。点数 70 点以上 80 点未満、評価C、GP2。点数 60 点以上 70 点未満、評価D、GP1。点数 60 点未満、評価F、GP0。 (3) GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 GPA＝(各科目の修得単位数×GP) の和を総単位数で割る 総単位数 (例) <table><tr><th>科目</th><th>単位</th><th>GP</th><th>単位×GP</th><th>科目</th><th>単位</th><th>GP</th><th>単位×GP</th></tr><tr><td>数学</td><td>4</td><td>3</td><td>4×3＝12</td><td>物理</td><td>2</td><td>3</td><td>2×3＝6</td></tr><tr><td>生物</td><td>4</td><td>4</td><td>4×4＝16</td><td>化学</td><td>4</td><td>2</td><td>4×2＝8</td></tr><tr><td>英語</td><td>2</td><td>4</td><td>2×4＝8</td><td>国語</td><td>4</td><td>1</td><td>4×1＝4</td></tr><tr><td>合計</td><td>20</td><td>—</td><td>54</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> GPAは、GP×単位の合計 54 を単位の合計 20 で割った値となるため、GPA＝54／20＝2.70 となる。なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公表している。								科目	単位	GP	単位×GP	科目	単位	GP	単位×GP	数学	4	3	4×3＝12	物理	2	3	2×3＝6	生物	4	4	4×4＝16	化学	4	2	4×2＝8	英語	2	4	2×4＝8	国語	4	1	4×1＝4	合計	20	—	54				
科目	単位	GP	単位×GP	科目	単位	GP	単位×GP																																								
数学	4	3	4×3＝12	物理	2	3	2×3＝6																																								
生物	4	4	4×4＝16	化学	4	2	4×2＝8																																								
英語	2	4	2×4＝8	国語	4	1	4×1＝4																																								
合計	20	—	54																																												
客観的な指標の算出方法の公表方法		ホームページ (情報公開・試験規程) https://www.osaka-hitech.ac.jp/school/disclosure/																																													
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 進級・卒業に関しては、 ①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受けなければ進級または卒業することができない。 ②進級に際しては、所定の科目すべてに合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認めることがある。ただし、臨床工学技士科、臨床工学技士専攻科、柔道整復師学科、柔道整復スポーツ学科、鍼灸スポーツ学科、診療放射線技師学科に関しては別途、諸規定で定める。 ④ 進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公表している。																																															
卒業の認定に関する方針の公表方法		ホームページ (情報公開・学生規程) https://www.osaka-hitech.ac.jp/school/disclosure/																																													

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人 大阪滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://osaka.jikeigroup.net/zaimu
収支計算書又は損益計算書	http://osaka.jikeigroup.net/zaimu
財産目録	http://osaka.jikeigroup.net/zaimu
事業報告書	http://osaka.jikeigroup.net/zaimu
監事による監査報告（書）	http://osaka.jikeigroup.net/zaimu

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	バイオ・再生医療学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2580 時間	870 時間	750 時間	1590 時間	0 時間	0 時間
			3210 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
114 人		58 人	0 人	3 人	14 人の内数	17 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとしているとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼（学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 学科の特色としてバイオテクノロジーの進歩・発展は目覚しく、これらの先端技術による将来の医療、化粧品、食品業界への貢献が期待されている。そのなかで特にバイオ医薬品などの医薬品開発や細胞医薬品などの再生医療分野、遺伝子検査・治療技術において、動物細胞や遺伝子を取扱う実験技術者が求められている。本学科はバイオテクノロジーの高度な専門技術・知識を総合的に学び、自ら考え実行・達成する力を身につけた人材の養成を目標とする。

成績評価の基準・方法
(概要) (1) 本校では、GPA (Grade Point Average) 制度による評価を行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されている成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント (GP) に置きかえた平均を数値により表したものである。また、GPAを参考に下位の学生に対し指導を行う事がある。 (2) 成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数 90 点以上、評価A、GP4。点数 80 点以上 90 点未満、評価B、GP3。点数 70 点以上 80 点未満、評価C、GP2。点数 60 点以上 70 点未満、評価D、GP1。 点数 60 点未満、評価F、GP0。 (3) GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 $GPA = (\text{各科目の修得単位数} \times GP) \text{ の和を総単位数で割る}$
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受けなければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべてに合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公表している。
学修支援等
(概要) 前期・後期にそれぞれ定期面談を実施するとともに、出席状況や成績、授業中の様子や学生からの申出によって、随時個別での面談指導を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17 人 (100.0%)	0 人 (0%)	16 人 (94.1%)	1 人 (5.9%)
(主な就職、業界等) タカラバイオ (医薬品)、ニプロファーマ (医薬品) シオノギテクノアドバンスリサーチ (医薬品)、リグナイト (化学) 等			
(就職指導内容) 1 年次よりキャリア開発の授業を実施し、インターンシップや具体的な就職指導、面接練習を通して一人一人に合せた就職先にマッチングさせていく。			

(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
危険物取扱者	③	26 人	4 人
化学分析技能士 3 級	③	10 人	6 人
中級バイオ技術者認定試験	③	12 人	11 人
上級バイオ技術者認定試験	③	17 人	4 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	5 人	8.3%
(中途退学の主な理由) ・モチベーションの低下 ・精神疾患、家業を継ぐ為		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期面談及び随時の個別面談・スクールカウンセラーの活用		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	スポーツ科学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1920 時間	720 時間	990 時間	210 時間	0 時間	0 時間
			1920 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		40 人	0 人	3 人	14	17 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとしているとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼（学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 少子高齢社会の急速な進展に伴い健康・体力づくりの必要性や競技技術の向上など、スポーツに関わる環境は大きく変化してきた。そこで本学科では、スポーツ・医療・健康分野における身体活動を科学的にとらえ、対象に応じた適切な運動プログラムを提供できる実践力に長けた人材育成を目的としている。
成績評価の基準・方法
（概要） (1) 本校では、GPA（Grade Point Average）制度による評価を行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されている成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（GP）に置きかえた平均を数値により表したものである。また、GPAを参考に下位の学生に対し指導を行う事がある。 (2) 成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数 90 点以上、評価A、GP4。点数 80 点以上 90 点未満、評価B、GP3。点数 70 点以上 80 点未満、評価C、GP2。点数 60 点以上 70 点未満、評価D、GP1。 点数 60 点未満、評価F、GP0。 (3) GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 $GPA = \frac{\text{各科目の修得単位数} \times GP}{\text{の和を総単位数で割る}}$
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受けなければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべてに合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公表している。
学修支援等
（概要）定期的な個人面談、電話や直接面談による保護者との連携

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 （ 100.0 %）	2 人 （ 9.5 %）	17 人 （ 81.0%）	2 人 （ 9.5%）
（主な就職、業界等） たつねクリニック、医療法人錦秀会、西川整形外科リハビリクリニック、にほん整体株式会社、ラグスタ株式会社、カラダツクル株式会社、株式会社春、高島整形外科、株式会社 LAVA、株式会社 LAVA、株式会社ウイング、貴島病院本院、株式会社あらたか			
（就職指導内容） 大阪滋慶学園主催の就職フェアを始め、オンライン見学実習、履歴書指導、面接練習等、学生個々のニーズに合わせて対応をしている。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
健康運動実践指導者	②	18 人	9 人
JATI トレーニング指導者	②	18 人	10 人
アスレティックトレーナー	②	13 人	2 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	2 人	4.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更、体調不良 等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 定期的な個別面談、入学前教育の実施（プレスクール、入学前課題）、学生サポートアンケートの実施、スコラ手帳の活用、出席不良者への当日中の保護者連絡		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	日本語学科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1.5 年	昼	1200 時間	1200 時間	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	
			1200 時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
40 人		1 人	1 人	2 人	4 人		6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4 つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 本学科は、主に大阪滋慶学園が提携する大学等からの留学生を対象に受け入れを行い、 進学先での専門知識の習得に必要な日本語能力を身につけられるよう、初級レベルか ら上級レベルの日本語教育を行なっている。また、日本社会や文化を理解しようとす る態度を涵養し、広い視野を有した日本と母国との交流と発展に資する人材を育成す ることを目標としている。
成績評価の基準・方法
（概要） （1）本校では、GPA（Grade Point Average）制度による評価 を行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されてい る成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（GP）に置きかえた 平均を数値により表したものである。また、GPAを参考に下位の学生に対し指導を 行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数 90 点以上、評価A、GP4。点数 80 点以上 90 点未満、評価B、GP3。点数 70 点以上 80 点未満、評価C、GP2。点数 60 点以上 70 点未満、評価D、GP1。 点数 60 点未満、評価F、GP0。 （3）GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 $GPA = \frac{\text{各科目の修得単位数} \times GP}{\text{の和を総単位数で割る}}$
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。

学修支援等
(概要) 定期面談及び出席や学習状況に応じ随時個別での面談指導を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5 人 (100.0 %)	5 人 (100.0 %)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 大阪ハイテクノロジー専門学校 臨床工学技士専攻科			
(就職指導内容) 履歴書や礼状の書き方、自己 PR やよく聞かれる質問の答え方、面接練習など			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
日本語能力検定 N 4	③	1 人	1 人
日本語能力検定 N 3	③	0 人	0 人
日本語能力検定 N 2	③	5 人	5 人
日本語能力検定 N 1	③	5 人	5 人
日本留学試験	③	5 人	3 人 (450 点中 320 点)
第 2 種 ME 技術実力検定	③	5 人	0 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期面談及び随時の個別面談・スクールカウンセラーの活用・補習授業の実施		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	専攻科 バイオサイエンス専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	1110 時間	360 時間	0 時間	750 時間	0 時間	0 時間
			1110 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		0 人	0 人	3 人の内数	10 人の内数	13 人の内 数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 学科の特色としてバイオテクノロジーの進歩・発展は目覚しく、これらの先端技術に よる将来の医療、化粧品、食品業界への貢献が期待されている。そのなかで特にバイ オ医薬品などの医薬品開発や細胞医薬品などの再生医療分野、遺伝子検査・治療技術 において、動物細胞や遺伝子を取扱う実験技術者が求められている。本学科はバイ オテクノロジーの高度な専門技術・知識を総合的に学び、自ら考え実行・達成する力を 身につけた人材の養成を目標とする。
成績評価の基準・方法
（概要） （1）本校では、GPA（Grade Point Average）制度による評価 を行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されてい る成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（GP）に置きかえた 平均を数値により表したものである。また、GPAを参考に下位の学生に対し指導 を行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数90点以上、評価A、GP4。点数80点以上90点未満、評価B、GP3。点数 70点以上80点未満、評価C、GP2。点数60点以上70点未満、評価D、GP1。 点数60点未満、評価F、GP0。 （3）GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 GPA＝（各科目の修得単位数×GP）の和を総単位数で割る
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。

学修支援等
(概要) 前期・後期にそれぞれ定期面談を実施するとともに、出席状況や成績、授業中の様子や学生からの申出によって、随時個別での面談指導を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1 人 (100.0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	1 人 (100.0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) キャリア開発の授業を実施し、具体的な就職指導、面接練習を通して一人一人に合った就職先にマッチングさせていく。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
危険物取扱者	③	0 人	0 人
毒物劇物取扱者	③	0 人	0 人
中級バイオ技術者認定試験	③	0 人	0 人
上級バイオ技術者認定試験	③	0 人	0 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	臨床工学技士科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3435 時間	1740 時間	945 時間	750 時間	0 時間	0 時間
			3435 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		90 人	0 人	6 人の内数	31 人の内数	37 人の内 数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 現代の医療技術・医療機器の進歩は著しく、臨床現場において臨床工学技士業務もそ の進歩とともに常に変化している。そのため、医療現場に求められる人材も多岐にわ たっており、高い専門性（スペシャリスト）や幅広い技術と知識（ジェネラリスト） が求められている。本校ではこれらに対応できる人材の養成を目標としている。
成績評価の基準・方法
（概要） （1）本校では、G P A（G r a d e P o i n t A v e r a g e）制度による評価 を行なう。G P A制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されてい る成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（G P）に置きかえた 平均を数値により表したものである。また、G P Aを参考に下位の学生に対し指導 を行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるG Pについては、以下のとおり定めている。 点数 90 点以上、評価A、GP4。点数 80 点以上 90 点未満、評価B、GP3。点数 70 点以上 80 点未満、評価C、GP2。点数 60 点以上 70 点未満、評価D、GP1。 点数 60 点未満、評価F、GP0。 （3）G P A算出式。G P Aの算出式は以下の通りとする。 G P A＝（各科目の修得単位数×G P）の和を総単位数で割る
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。また、国家試験を要する学科の評価基準は、学生便覧の教科課程におい て国家試験に関係する科目について、成績評価は試験素点（定期試験及び小テストを 含む）のみで評価するものと定めている。 卒業論文に関してはグループ研究を基礎とし毎年、論文集の発行や発表会を実施して

いる。さらに、学外の公会堂にて「卒業研究・課題研究発表会」を毎年実施しポスター発表および口頭発表を実施している。また、特に優秀な発表においては卒業式にて表彰するなど職業人教育の集大成として取り組んでいる。
学修支援等
（概要）出席および成績不良者には個別に面談・指導を行い、また保護者とも連携して指導する。4月には3年生、9月にその他の学年と保護者懇談会を設け、学生個別情報の共有を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
29 人 （ 100.0%）	0 人 （ 0.0%）	23 人 （ 79.3%）	6 人 （ 20.7%）
（主な就職、業界等）大阪大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院、奈良県立医科大学附属病院、和歌山県立医科大学附属病院、京都第二赤十字病院、和歌山赤十字医療センター、近江八幡総合医療センター、大阪ろうさい病院、宇治徳洲会病院、など			
（就職指導内容）学生希望に応じ、就職フェアなど業界説明会の参加、施設見学の幹事を行なう。見学先から受験先を選定。2 施設以上の同時受験は原則禁止。内定先には必ず就職することを原則として指導。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
臨床工学技士	②	29 人	22 人
第2種 ME 技術実力検定	③	67 人	14 人
技術英語能力検定	③	23 人	12 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。			
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの			
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの③その他（民間検定等）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
94 人	1 人	1.1%
（中途退学の主な理由） 学習内容の不適合による進路変更、心身の事情に伴う勉学の継続困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 意識低下防止および学生状況の把握：個別面談、保護者連絡・相談、病院見学、学生サポートアンケートの実施 学力低下防止：入学前対策（プレスクール、入学前課題）、基礎学力対策（補習、朝日新聞時事ワークシート）などの実施。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	臨床工学技士科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	2280 時間	1320 時間	450 時間	510 時間	0 時間	0 時間
			2265 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		71 人	0 人	6 人の内数	28 人の内数	34 人の内 数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 現代の医療技術・医療機器の進歩は著しく、臨床現場において臨床工学技士業務もそ の進歩とともに常に変化している。そのため、医療現場に求められる人材も多岐にわ たっており、高い専門性（スペシャリスト）や幅広い技術と知識（ジェネラリスト） が求められている。本校ではこれらに対応できる人材の養成を目標としている。
成績評価の基準・方法
（概要） （1）本校では、GPA（Grade Point Average）制度による評価 を行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されてい る成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（GP）に置きかえた 平均を数値により表したものである。また、GPAを参考に下位の学生に対し指導 を行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数90点以上、評価A、GP4。点数80点以上90点未満、評価B、GP3。点数 70点以上80点未満、評価C、GP2。点数60点以上70点未満、評価D、GP1。 点数60点未満、評価F、GP0。 （3）GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 $GPA = \frac{\text{各科目の修得単位数} \times GP}{\text{の和を総単位数で割る}}$
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。また、国家試験を要する学科の評価基準は、学生便覧の教科課程におい て国家試験に関係する科目について、成績評価は試験素点（定期試験及び小テストを 含む）のみで評価するものと定めている。
学修支援等
（概要）出席不良者には個別に面談を行い、また保護者とも連携して指導する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
38 人 （ 100.0%）	0 人 （ 0.0%）	33 人 （ 86.8%）	5 人 （ 13.2%）																
（主な就職、業界等） 大阪大学医学部附属病院、大阪医科薬科大学病院、関西医科大学附属病院、大阪府立総合医療センター、奈良県立医科大学附属病院、和歌山医科大学附属病院、京都第一赤十字病院、関西労災病院、北野病院、白鷺病院、京都岡本記念病院、済生会吹田病院など （就職指導内容）学生希望に応じ、就職フェアなど業界説明会の参加、施設見学の斡旋を行なう。見学先から受験先を選定。2 施設以上の同時受験は原則禁止。内定先には必ず就職することを原則として指導。																			
（主な学修成果（資格・検定等）） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床工学技士</td><td>②</td><td>38 人</td><td>33 人</td></tr> <tr> <td>第 1 種 ME 技術実力検定</td><td>③</td><td>3 人</td><td>3 人</td></tr> <tr> <td>第 2 種 ME 技術実力検定</td><td>③</td><td>47 人</td><td>22 人</td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの③その他（民間検定等） （備考）（任意記載事項）				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	臨床工学技士	②	38 人	33 人	第 1 種 ME 技術実力検定	③	3 人	3 人	第 2 種 ME 技術実力検定	③	47 人	22 人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
臨床工学技士	②	38 人	33 人																
第 1 種 ME 技術実力検定	③	3 人	3 人																
第 2 種 ME 技術実力検定	③	47 人	22 人																

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
100 人	6 人	6.0%
（中途退学の主な理由） 学習内容の不適合による進路変更、家庭及び身体の事情に伴う勉学の継続困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 意識低下防止および学生状況の把握：個別面談、保護者連絡・相談、病院見学、スコラ手帳の活用、学生サポートアンケートの実施 学力低下防止：入学前対策（プレスクール、入学前課題）、基礎学力対策（補習、朝日新聞時事ワークシート）などの実施。		

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程		柔道整復師学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
3 年	昼	2760 時間	1620 時間	270 時間	870 時間	0 時間	0 時間		
			2760 時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
90 人		49 人	0 人	7 人の内数		16 人の内数		23 人の内 数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 柔道整復師とは、骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷の外傷に対して、施術を行う専門家 である。本学科では、柔道整復師に必要な専門知識と、技術の習得と国家試験全員合 格を目標に指導を行っている。また、テーピング・カイロプラクティック・アロマテ ラピー・ウォーキングトレーナー等も同時に学び、実践力や臨床力を持った施術者の 育成を目指しており、国家資格取得だけでなく民間資格も取得できる幅広いカリキュ ラム編成を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 1）本校では、GPA（Grade Point Average）制度による評価を 行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されている 成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（GP）に置きかえた平 均を数値により表したものである。また、GPAを参考に下位の学生に対し指導を 行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数90点以上、評価A、GP4。点数80点以上90点未満、評価B、GP3。点数 70点以上80点未満、評価C、GP2。点数60点以上70点未満、評価D、GP1。 点数60点未満、評価F、GP0。 （3）GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 $GPA = \frac{\text{各科目の修得単位数} \times GP}{\text{の和を総単位数で割る}}$
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。また、国家試験を要する学科の評価基準は、学生便覧の教科課程におい て国家試験に関係する科目について、成績評価は試験素点（定期試験及び小テストを 含む）のみで評価するものと定めている。

学修支援等
(概要) 担任による日々の出席管理後、個別面談を行い、保護者とも連携して、適時三者面談も実施している。また、面談より聴取した弱点科目の課題配布・個別学習指導などの学習支援を併せて実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	12 人 (85.7%)	2 人 (14.3%)
(主な就職、業界等) 株式会社あつ晴、かがやき整骨院、株式会社わだちグループ、株式会社 SYNERGY JAPAN、株式会社 TAG、株式会社フューチャーシップ、みどり整骨院、株式会社太洋メディカル、日本セラピー株式会社、もも整骨院 他			
(就職指導内容) 個別面談にて就職希望聴取後、キャリアセンターと担任で就職個別面談を実施し、施設見学等を実施している。また、就職フェアにて施設紹介も併せて実施している。履歴書作成指導、就職面談指導も併せて実施している。			
主な学修成果（資格・検定等）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
柔道整復師	②	14 人	8 人
アロマセラピー検定 1 級	③	18 人	13 人
ウォーキングトレーナー	③	12 人	12 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。			
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの			
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの			
③その他（民間検定等）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54 人	9 人	16.7 %
(中途退学の主な理由) 心身不調・経済的理由・進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前教育（プレスクール、入学前課題）、学生サポートアンケート実施、個人面談、保護者懇談会開催時の保護者個人面談実施、転科支援、スチューデント・サービス・センター（SSC）の設置（ヘルス・メンタルサポート制度） 他		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	柔道整復スポーツ学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	3690 時間	2040 時間	510 時間	1140 時間	0 時間	0 時間	
			3690 時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人		84 人	0 人	7 人の内数	30 人の内数	37 人の内 数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 本学科が育成をおこなっている「スポーツ」と「医療」に寄与する人材は、全ての人 が幸福で豊かな生活を営むためには必要不可欠な人材である。医療人としての高い倫 理観と他者に共感できる心を育み、知識と技術を兼ね備えた、スポーツトレーナーや 柔道整復師として活躍できる人材の養成を目標としている
成績評価の基準・方法
（概要）概要） （1）本校では、G P A（G r a d e P o i n t A v e r a g e）制度による評価 を行なう。G P A制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されてい る成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（G P）に置きかえた 平均を数値により表したものである。また、G P Aを参考に下位の学生に対し指導 を行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるG Pについては、以下のとおり定めている。 点数 90 点以上、評価A、GP4。点数 80 点以上 90 点未満、評価B、GP3。点数 70 点以上 80 点未満、評価C、GP2。点数 60 点以上 70 点未満、評価D、GP1。 点数 60 点未満、評価F、GP0。 （3）G P A算出式。G P Aの算出式は以下の通りとする。 G P A＝（各科目の修得単位数×G P）の和を総単位数で割る
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。また、国家試験を要する学科の評価基準は、学生便覧の教科課程におい て国家試験に関係する科目について、成績評価は試験素点（定期試験及び小テストを 含む）のみで評価するものと定めている。 卒業論文に関してはグループ研究を基礎とし毎年、論文集の発行や発表会を実施して

いる。さらに、学外の公会堂にて「卒業研究・課題研究発表会」を毎年実施しポスター発表および口頭発表を実施している。また、特に優秀な発表においては卒業式にて表彰するなど職業人教育の集大成として取り組んでいる。
学修支援等
(概要) 担任による日々の出席管理後、個別に面談を行い、保護者とも連携している。面談より聴取した弱点科目の課題・個別学習指導などのチュートリアル方式で学習支援を実施。長期欠席者については、保護者を含め対応を都度電話等で確認を行っており、必要があれば自宅訪問も実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21 人 (100.0%)	1 人 (4.8%)	19 人 (90.4%)	1 人 (4.8%)
(主な就職、業界等) 株式会社 Eternal Smile、株式会社 Loop Quest、株式会社 HS コーポレーション、GODHAND株式会社、EMPOWERMENT 株式会社、株式会社サンライズ、整形外科ひろクリニック、株式会社アーチ、株式会社リーデン、株式会社スマイル 他			
(就職指導内容) 就職希望を聴取後、キャリアセンターと担任で個別対応にて、施設見学等の指導を行っている。就職フェアにおいても施設紹介を併せて実施している。面接が決定した際には面接練習会も実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
柔道整復師	②	21 人	13 人
アスレティックトレーナー	③	12 人	8 人
JATI-ATI トレーニング指導者	③	29 人	18 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。			
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの			
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの③その他（民間検定等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
79 人	4 人	5.1 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前教育（プレスクール、入学前課題）、学生サポートアンケート実施、個人面談、保護者懇談会開催時の保護者個人面談実施、転科支援、スチューデント・サービス・センター（SSC）の設置（ヘルス・メンタルサポート制度） 他		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	鍼灸スポーツ学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3420 時間	2010 時間	480 時間	930 時間	0 時間	0 時間
			3420 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		70 人	0 人	6 人	13 人	19 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 本学科は、「職業人教育を通して社会に貢献する」をミッションとして、スポーツ愛 好家から競技スポーツ選手までをサポートができる。また、中医学に基づいた鍼灸治 療を中心として、東洋医学・西洋医学の両アプローチができる質の高い理論と技術を 有した鍼灸治療の専門家を育て、卒業後即戦力として活躍できる鍼灸師・スポーツ トレーナーの養成を目標としている。
成績評価の基準・方法
（概要） （1）本校では、G P A（G r a d e P o i n t A v e r a g e）制度による評価 を行なう。G P A制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されてい る成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（G P）に置きかえた 平均を数値により表したものである。また、G P Aを参考に下位の学生に対し指導 を行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるG Pについては、以下のとおり定めている。 点数 90 点以上、評価A、GP4。点数 80 点以上 90 点未満、評価B、GP3。点数 70 点以上 80 点未満、評価C、GP2。点数 60 点以上 70 点未満、評価D、GP1。 点数 60 点未満、評価F、GP0。 （3）G P A算出式。G P Aの算出式は以下の通りとする。 G P A＝（各科目の修得単位数×G P）の和を総単位数で割る
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。また、国家試験を要する学科の評価基準は、学生便覧の教科課程におい て国家試験に関係する科目について、成績評価は試験素点（定期試験及び小テストを 含む）のみで評価するものと定めている。 卒業論文に関してはグループ研究を基礎とし毎年、論文集の発行や発表会を実施して いる。さらに、学外の公会堂にて「卒業研究・課題研究発表会」を毎年実施しポスタ

一発表および口頭発表を実施している。また、特に優秀な発表においては卒業式にて表彰するなど職業人教育の集大成として取り組んでいる。
学修支援等
(概要) 出席管理は各クラス担任が行っており、状況により保護者連絡を実施。学習習慣の定着に向け、授業ごとに小テスト・中間テストを実施していく。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	21 人 (87.5%)	3 人 (12.5%)
(主な就職、業界等) えぐち鍼灸整骨院、株式会社 Eternal Smile、株式会社マーサメディカル、株式会社 NOMOKOTSU、真聖株式会社、株式会社フューチャージップなど			
(就職指導内容) 早期より業界ガイダンスを実施し、業種・職種の方向性を考えさせる。その後、個別面談にて方向性を聴取し、キャリアセンターより見学日の調整を行う。履歴書記載指導や面接指導も随時実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
はり師きゆう師	②	24 人	22 人
アスレティックトレーナー	③	14 人	10 人
健康運動実践指導者	③	18 人	15 人
JATI-ATI 試験	③	17 人	13 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの③その他（民間検定等）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
74 人	3 人	4.1%
(中途退学の主な理由) 学力不足、学習意欲の低下、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組)・入学前教育(プレスクール・入学前課題) ・担任面談 ・放課後補習 ・転科の支援		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	診療放射線技師学科			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	3405 時間	2415 時間	450 時間	540 時間	150 時間	0 時間
			3405 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		160 人	0 人	7 人の内数	23 人の内数	30 人の内 数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 現代医療において、放射線は疾患の正確な診断や治療に欠くことができないものとな っている。特にコンピュータ技術の進歩に伴い、新しい放射線機器が次々と開発され ており、医療における診療放射線技師の役割は発展し続けている。そのような放射線 技術の高度化や多様性に対応するため、基礎的な知識と技術の修得に加え、医療人と して求められる幅広い視野、高い倫理観、コミュニケーション能力を身につけた人材 を育成する。また国家試験に合格するだけでなく、生涯にわたる自己研鑽能力を備え た職業人の育成を目指す。
成績評価の基準・方法
（概要） （1）本校では、GPA（Grade Point Average）制度による評価 を行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されてい る成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（GP）に置きかえた 平均を数値により表したものである。また、GPAを参考に下位の学生に対し指導 を行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数90点以上、評価A、GP4。点数80点以上90点未満、評価B、GP3。点数 70点以上80点未満、評価C、GP2。点数60点以上70点未満、評価D、GP1。 点数60点未満、評価F、GP0。 （3）GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 $GPA = (\text{各科目の修得単位数} \times GP) \text{ の和を総単位数で割る}$
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。また、国家試験を要する学科の評価基準は、学生便覧の教科課程におい

て国家試験に関係する科目について、成績評価は試験素点（定期試験及び小テストを含む）のみで評価するものと定めている。 卒業研究に関してはグループ研究を基礎とし毎年、報告集の発行や発表会を実施している。さらに、学外の公会堂にて「卒業研究・課題研究発表会」を毎年実施し口頭発表を実施している。また、特に優秀な発表においては卒業式にて表彰するなど職業人教育の集大成として取り組んでいる。
学修支援等
（概要）出席不良者には個別に面談を行い、また保護者とも連携して指導する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31 人 (100%)	0 人 (0.0%)	22 人 (71.0%)	9 人 (29.0%)
（主な就職、業界等）石切生喜病院、宇治徳洲会病院、岸和田徳洲会病院、八尾徳洲会病院、はくほう会セントラル病院、赤穂中央病院、東近江総合医療センター、国立循環器研究センター、川西市立総合医療センター、高井病院、メディカル・エキスパート株式会社等			
（就職指導内容） 就職フェアなど業界説明会の参加、施設見学の斡旋を行なう。見学先から受験先を選定。内定先には必ず就職することを原則として指導をすすめている。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
診療放射線技師	②	31 人	24 人
医療情報技師	③	42 人	0 人
第一種放射線取扱主任者②		2 人	1 人
第二種放射線取扱主任者②		26 人	0 人
ニュース検定	③	43 人	41 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
159 人	6 人	3.8%
（中途退学の主な理由） 体調不良（メンタルも含）、進路変更、等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前教育（プレスクール、入学前課題）、個人面談、スチューデント・サービス・センター（SSC）の設置（ヘルス・メンタルサポート制度）、他		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	診療放射線技師学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	夜	2835 時間	1920 時間	285 時間	540 時間	90 時間	0 時間
			2835 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		165 人	0 人	7 人の内数	27 人の内数	34 人の内 数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 現代医療において、放射線は疾患の正確な診断や治療に欠くことができないものとな っている。特にコンピュータ技術の進歩に伴い、新しい放射線機器が次々と開発され ており、医療における診療放射線技師の役割は発展し続けている。そのような放射線 技術の高度化や多様性に対応するため、基礎的な知識と技術の修得に加え、医療人と して求められる幅広い視野、高い倫理観、コミュニケーション能力を身につけた人材 を育成する。また国家試験に合格するだけでなく、生涯にわたる自己研鑽能力を備え た職業人の育成を目指す。
成績評価の基準・方法
（概要） （1）本校では、GPA（Grade Point Average）制度による評価 を行なう。GPA制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されてい る成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（GP）に置きかえた 平均を数値により表したものである。また、GPAを参考に下位の学生に対し指導 を行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるGPについては、以下のとおり定めている。 点数90点以上、評価A、GP4。点数80点以上90点未満、評価B、GP3。点数 70点以上80点未満、評価C、GP2。点数60点以上70点未満、評価D、GP1。 点数60点未満、評価F、GP0。 （3）GPA算出式。GPAの算出式は以下の通りとする。 $GPA = (\text{各科目の修得単位数} \times GP) \text{ の和を総単位数で割る}$
卒業・進級の認定基準
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。また、国家試験を要する学科の評価基準は、学生便覧の教科課程におい

て国家試験に関係する科目について、成績評価は試験素点（定期試験及び小テストを含む）のみで評価するものと定めている。 卒業課題研究に関してはグループ研究を基礎とし毎年、論文集の発行や発表会を実施している。さらに、学外の公会堂にて「卒業研究・課題研究発表会」を毎年実施し口頭発表を実施している。また、特に優秀な発表においては卒業式にて表彰するなど職業人教育の集大成として取り組んでいる。
学修支援等
（概要）出席不良者には個別に面談を行い、また保護者とも連携して指導する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34 人 (100%)	1 人 (2.9%)	22 人 (64.7%)	11 人 (32.4%)
（主な就職、業界等） 城山病院、国立和歌山病院、国立循環器病研究センター、JCHO 高知西病院、千船病院、若草第一病院、神戸大学附属病院、医誠会国際総合病院、和泉市立総合医療センター、兵庫県立尼崎医療センター、吹田徳洲会病院、大阪国際がんセンター、八尾市立病院、大阪府済生会中津病院、市立池田病院等			
（就職指導内容） 就職フェアなど業界説明会の参加、施設見学の斡旋を行なう。見学先から受験先を選定。内定先には必ず就職することを原則として指導をすすめている。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
診療放射線技師	②	34 人	23 人
医療情報技師	③	43 人	0 人
第一種放射線取扱主任者②		1 人	1 人
第二種放射線取扱主任者②		7 人	0 人
ピンクリボンアドバイザー認定③		39 人	39 人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
161 人	4 人	2.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前教育（プレスクール、入学前課題）、個人面談、スチューデント・サービス・センター（SSC）の設置（ヘルス・メンタルサポート制度）、他		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	人工知能学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2790 単位時間	900 時間	690 時間	1740 時間	0 時間	0 時間
			3330 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		16 人	1 人	3 人	10 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）本学園は、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとして いるとともに建学の理念として実学教育や人間教育、国際教育を実践し、4つの信頼 （学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を実現 および遂行している。また、上記に従い以下の3つのポリシー（①ディプロマポリシ ー、②カリキュラムポリシー、③アドミッションポリシー）を策定している。 現在、身の回りのあらゆるモノにA I（人工知能）が搭載され、I o T（I n t e r n e t o f T h i n g s）と呼ばれる技術で社会課題を解決する時代が訪れている。 特に生成A Iのような新しい技術が、ゲームチェンジャーとなっている。そのよ うな時代において必要なのは、課題を解決するソリューションの設計・実装・制御・ 拡散を総合的に実践できる人材である。本学科ではA I・I o t分野において新しい ビジネスを創造し、社会に貢献できる人材の育成を目標とする。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 1）本校では、G P A（G r a d e P o i n t A v e r a g e）制度による評価を 行なう。G P A制度とは、国際的に通用する基準として欧米を中心に適用されている 成績評価であり、履修科目の成績評価をグレード・ポイント（G P）に置きかえた平 均を数値により表したものである。また、G P Aを参考に下位の学生に対し指導を 行う事がある。 （2）成績の評価及び各評価に与えられるG Pについては、以下のとおり定めている。 点数 90 点以上、評価A、GP4。点数 80 点以上 90 点未満、評価B、GP3。点数 70 点以上 80 点未満、評価C、GP2。点数 60 点以上 70 点未満、評価D、GP1。 点数 60 点未満、評価F、GP0。 （3）G P A算出式。G P Aの算出式は以下の通りとする。 G P A＝（各科目の修得単位数×G P）の和を総単位数で割る	
卒業・進級の認定基準	
（概要）（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 進級・卒業に関しては、①所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、補習を受け なければ進級または卒業することができない。②進級に際しては、所定の科目すべて に合格していることが必要であるが、未履修科目が3科目以内の場合は、仮進級を認 めることがある。③進級、卒業を判定するため、進級、卒業判定委員会を設ける。 なお、上記内容に関しては、学生便覧に記載し配布すると共に、ホームページでも公 表している。	

学修支援等
(概要) 前期・後期にそれぞれ定期面談を実施するとともに、出席状況や成績、授業中の様子や学生からの申出によって、随時個別での面談指導を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他																
10 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	10 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)																
(主な就職、業界等) IT 業界：弥生(株)・(株)セカンド・セレクション・(株)スタイル・フリー・(株)システム・インクリメント アウトソーシング：(株)アスパーク・(株)マイナビ Edge・(株)ワールド・インテック・(株)ビーネックステクノロジーーズ 病院：武田病院グループ																			
(就職指導内容) 1 年次より業界のことを学ぶ授業を実施、2 年次には就職活動対策授業を実施し、インターンシップも行う。個別面談を通して、より具体的な就職指導を行い、履歴書指導や面接練習を通して一人一人に合せた就職先にマッチングさせていく。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 次元 CAD</td><td>③</td><td>4 人</td><td>3 人</td></tr> <tr> <td>第二種電気工事士</td><td>①</td><td>1 人</td><td>1 人</td></tr> <tr> <td>G 検定</td><td>③</td><td>14 人</td><td>9 人</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	3 次元 CAD	③	4 人	3 人	第二種電気工事士	①	1 人	1 人	G 検定	③	14 人	9 人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
3 次元 CAD	③	4 人	3 人																
第二種電気工事士	①	1 人	1 人																
G 検定	③	14 人	9 人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																			
(備考)（任意記載事項）																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	2 人	11.1%
(中途退学の主な理由) 精神疾患・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期面談及び随時の個別面談・スクールカウンセラーの活用・補習授業の実施		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
バイオ・ 再生医療学科	100,000 円	950,000 円	205,000 円	
スポーツ科学科	100,000 円	950,000 円	190,000 円	
専攻科	100,000 円	450,000 円	80,000 円	
日本語学科 (1.5 年コース)	100,000 円	700,000 円	40,000 円	
臨床工学技士科	100,000 円	1,200,000 円	245,000 円	(昼間)
臨床工学技士科	100,000 円	950,000 円	235,000 円	(夜間)
柔道整復師学科	200,000 円	1,000,000 円	385,000 円	
柔道整復スポーツ学科	200,000 円	1,000,000 円	385,000 円	
鍼灸スポーツ学科	200,000 円	1,000,000 円	415,000 円	
診療放射線技師学科	100,000 円	1,000,000 円	395,000 円	(昼間)
診療放射線技師学科	100,000 円	800,000 円	385,000 円	(夜間)
人工知能学科	100,000 円	950,000 円	235,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもある。本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
保護者代表	2024年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	保護者代表
保護者代表	2024年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	保護者代表
保護者代表	2020年4月1日～2024年3月31日（任期終了）	保護者代表
保護者代表	2020年4月1日～2024年3月31日（任期終了）	保護者代表
近隣関係者（北中島地域活動協議会）	2024年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	地域代表
近隣関係者（北中島地域活動協議会）	2013年10月1日～2024年3月31日（任期終了）	
大阪信愛学院中学校高等学校	2024年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	高等学校
精華高等学校	2013年10月1日～2024年3月31日（任期終了）	高等学校
卒業生 上野砂糖株式会社	2020年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	卒業生代表
卒業生 兵庫医科大学病院	2013年10月1日～2026年3月31日（任期更新）	卒業生代表
ナカライテスク株式会社	2018年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	企業等委員
一般社団法人 i-RooB0 Network Forum	2016年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	企業等委員
学校法人 大阪成蹊大学	2018年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	企業等委員
公益社団法人 和歌山県柔道整復師会（副会長）	2019年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	企業等委員
公益社団法人 大阪府鍼灸師会（会長）	2024年4月1日～2026年3月31日（新規更新）	企業等委員

公益社団法人 大阪府鍼灸師会	2019年4月1日～2024年3月31日（任期終了）	企業等委員
一般社団法人 大阪府臨床工学技士会 （社会医療法人 生長会 ベルランド 総合病院）	2020年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	企業等委員
八尾市立病院	2024年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	企業等委員
地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター	2020年4月1日～2024年3月31日（任期終了）	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/approval/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		
評価団体：私立専門学校等評価研究機構 評価受審年月日：平成24年3月31日 評価団体：一般社団法人専門職高等教育質保証機構 評価受審年月日：平成31年2月15日		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310001352
学校名（〇〇大学 等）	大阪ハイテクノロジー専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 大阪滋慶学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		163人（ 0 ）人	149人（ 0 ）人	168人（ 0 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	98人	87人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅱ区分	25人	36人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅲ区分	35人	16人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	－	－	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				168人（ 0 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	-	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	-
訓告	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	-	0人	0人
計	-	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。